

二本のシャープペンシル

東京都 江東区立東川小学校 六年

青柳 杏奈

私のペンケースにはシャープペンシルが二本入っています。一本は私のもので、もう一本はお父さんのものです。どちらも新品だったはずなのに、私のシャープペンシルはいつの間にかヒビが入り、こわれかけています。でも、お父さんに算数の勉強を教えてもらう時に使っているこのシャープペンシルは私にとって、今ではお守りのようなものです。

私のお父さんは、とてもやさしくて、いつも私の気持ちを察して声をかけてくれます。四年生の時、算数の勉強が難しくなり、問題が解けずに困っていた時にお父さんが声をかけてくれました。それをきっかけに、私とお父さんの勉強の時間、「お父さん塾」が始まりました。その時から、二本のシャープペンシルもいつも一緒です。

私のお父さんは仕事が忙しくて、平日の夜はあまり話すこともできません。そのため、「お父さん塾」は早起きをして、朝の時間に始まります。本当は仕事で疲れているから、もっとねていたいと思うはずなのに、お父さんは私のために早起きをしてくれまます。そして、得意なところと苦手なところを察して、私のペースに合わせながら教えてくれたり、少しずつコツをつかんできたら、難しい問題へと変えてくれます。

いよいよテストの日の朝になると、お父さんと一緒に問題を予想します。二人で、笑い合いながらどの問題が出るか考えるこの時間はとても楽しいです。また、私は学校のテストがある

日はとてもきんちょうするのですが、お父さんと勉強したこと思い出すと、大丈夫だと自信をもつことができます。学校で、実際にテスト問題を見た時、予想が外れていたこともあるけれど、的中した時は、心の中でガッツポーズをしています。そして、結果が返ってきた日は、一番にお父さんに見せに行きます。すると、お父さんが

「苦手な問題も解けたね。」と笑ってほめてくれます。

学校で、友達に

「塾に行っているの?」

と聞かれた時、お父さんに教えてもらっていると答えると、とてもおどろいていました。私は、お父さんが勉強を教えてくださいることが日常になっていたので、日頃、感謝の気持ちをあまり伝えることができていないことに気がつきました。そんな時、学校の夏休みの課題で、「いつもありがとう作文コンクール」があることを知り、一番にお父さんのことが思い浮かびました。この作文を通して、お父さんに感謝の気持ちが伝わったらとてもうれしいです。そして、これからもお父さんと一緒に、二本のシャープペンシルを大切に使いながら、勉強をがんばりたいです。

「お父さん、私の心配やきんちょうをいつも自信に変えてくれてありがとう。」